

授業科目 老年看護学実習Ⅳ	科目概要・形式 2単位 90時間 実習科目	配当年次 博士前期2年次 通年開講	オンライン参加 不可
科目責任者	出貝 裕子		
科目担当者	出貝 裕子, 長内 志津子, 花田 麻由美		
1. 科目のねらい・目標 care と cure を統合した高度な実践を通し、病棟の看護ケアチームとしての質改善に取り組む能力を養い、専門看護師が果たす役割について理解を深める。 到達目標 [1] これまでの実習成果を活かし、急性期病院で治療を受ける認知機能低下を伴う患者に対し、care と cure を統合したパーソンセンタードケア実践について、スタッフと協働して高齢者とその家族に対し自立的に実施し評価できる。 [2] 受け持ち患者に対するケア実践を通して、病棟の看護チームにおけるケアの質改善に向けて働きかけ、CNSとしての教育の役割を実践することができる。 [3] 受け持ち患者に対するケア実践を通して、必要な倫理調整を図るとともに、スタッフの困りごとや相談に対し支援することができる。 [4] 老人看護 CNS を目指すものとしての自己の課題と課題解決の方策を考察し説明できる。			
2. 授業計画・内容 <実習の展開> 1) 急性期病院に入院している認知機能低下を伴う高齢患者を 1 名受け持ち、看護実践を展開する。看護実践する上で、病棟スタッフ及び多職種と積極的に連携をとる。 2) 実習指導者、教員のスーパービジョンを受ける。実習指導者とは毎日振り返りの時間をもち日々の疑問や改善点を明らかにして翌日の実習に臨む。教員とは定期的に対面あるいはオンラインで面談し、実習の進捗を報告し、必要な助言を受ける。 3) 病棟スタッフとの関係性を基盤にリーダーシップを発揮し、チームとしてのより質の高いケア実践に向けて積極的に働きかける。その際、病棟管理者と十分に連携をとる。 4) カンファレンスは履修者自身が企画運営し、実習指導者と教員の参加の下で行う。カンファレンス資料は事前に配布・配信することとする。			
3. 教科書・参考書 専門科目で使用した教科書、授業資料			
4. 成績評価方法 評価は、実習達成度について教員と実習指導者との協議を踏まえ、かつ実習及び事例報告を通じて、担当教員が単位認定を判定する。 評価項目：実習目標の達成度（実習記録）、実習レポート、実習に対する態度・姿勢			
5. 受講要件 なし			
6. 社会人学生に対する配慮			
7. その他			